

「気力・体力にあふれた子どもの育成」
～「できた わかった もっとやってみたい」と感じる体育学習をめざして～

1 主題について

- (1) 運動の特性にふれさせ、子どもたちの関心意欲を引き出し、課題を持ったり、創意工夫できたりする学びのある場づくり（場の設定）について
- (2) 互いの違いや友だちのよさを認めたり相手を思いやったりする豊かなかかわりについて
- (3) 自己を見つめさせたり、友だちのよさに気づかせたりする学習評価と指導について

2 研究の視点について

- (1) 形成的授業評価やデータを活かした授業改善
基礎基本的な技能を確実に習得する学習と授業の自己評価や子どもたちのふり返り（情意面の変容や感想など）を次の授業改善に生かす。
 - (2) 効果的な指導
場の設定や教具の工夫に努め、ICTの活用やゲーム的要素を取り入れるなど、子どもたちが意欲をもち、より自主的に学習に親しむことができるような指導に努める。
 - (3) 言語活動の充実
振り返りカードや学習カード等の活用を通して、ペア学習やグループ学習による言語活動が充実する場を意図的に設定していく。
- ☆ 身につけさせたい力や単元のゴールイメージを意識し、子ども同士のかかわりや指導者の支援など、授業改善に取り組んでいく。

3 本年度の努力事項

- (1) 研究の視点にせまる授業づくりに努め、授業研究会を行って研究を深める。
- (2) 子どもたちの体力を向上させるための運動や取り組みの充実を図る。
- (3) 各種研究会への参加を積極的に行い、研修を深める。

4 本年度の主な活動内容（予定を含む）

- (1) 5月 体育部会総会 ○平成28年度庶務・会計報告 ○平成29年度役員選出
○県小体研理事会の報告 ○スキー教室日程調整
- (2) 6月 小教研体育部会 ○水泳指導者講習会（市民プール）
- (3) 7月 小教研市内統一研修日 ○本年度の研究主題・研究計画の検討 ○授業研究会事前研
- (4) 8月 夏季一泊研修会参加（水明荘）
- (5) 8月 小教研体育部会 ○組立体操についての研修会（技の確認や安全面の検討）
- (6) 10月 中・四国小学校体育研究大会参加（今年度なし）
- (7) 10月末 市小教研体育部会 授業研究会と研究協議
○第6学年 ボール運動 授業者 森山 章二教諭（余子小学校）
単元名「ソフトバレーボール」
指導助言 嘉賀 収司 校長先生（渡小学校）
- (8) 1月 スキー指導者実技研修会
- (9) 2月 平成29年度「新体力テストのまとめ」冊子刊行
- (10) 2月 体育部総会 ○スキー教室の反省、スキー用具の点検（修理・整備）
○本年度事業・研究推進の反省やまとめ、来年度の研究推進について

※通年☆体育学習の準備運動に、腕支持の動きを取り入れる

☆各校の実態に合わせたストレッチ体操の実施

1 はじめに

(1) 運動の持つ特性

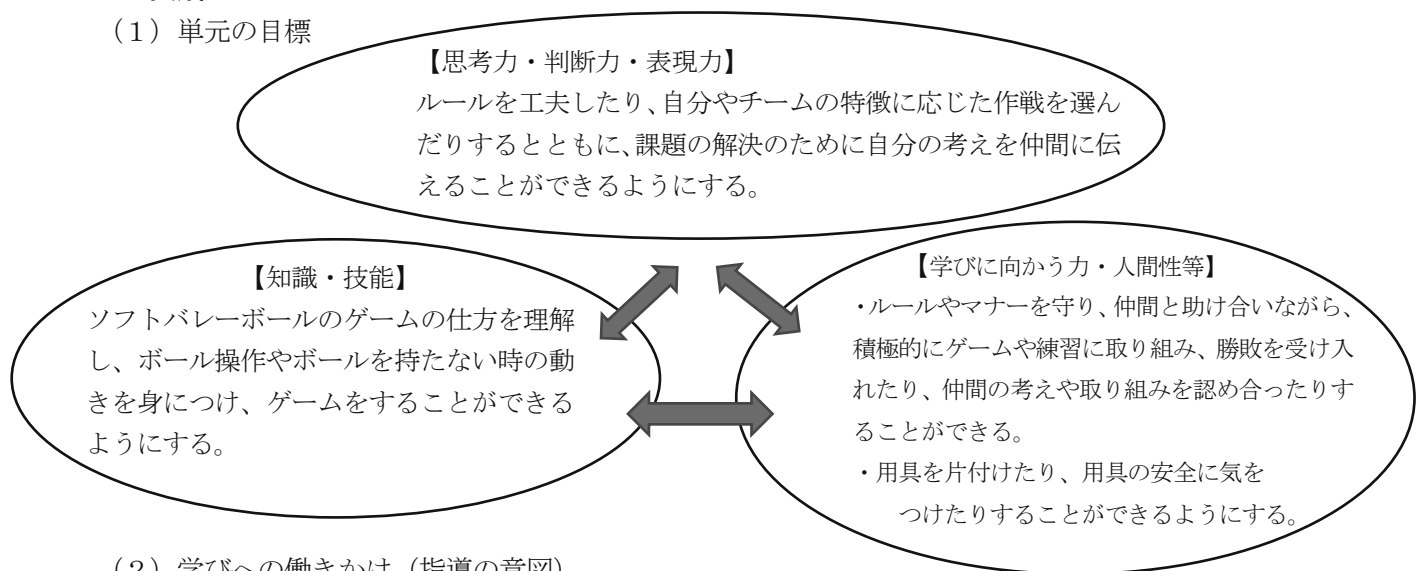
ボール運動系は、競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わったりすることができる運動である。基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身につけ、ゲームを楽しむことができる運動である。ネットを挟んだ相手コートに返していく際、仲間とパスを繋いだり、アタックで攻撃したりする楽しさを味わうことができる。仲間との協同的な学習において、友達とのかかわりやゲームの楽しさ・喜びを共有できることが期待される。友達と協力してゲームを楽しくしていくために、ルールや作戦を工夫したり、課題を解決していくための練習の場を設定したりすることができる。勝敗をめぐる、判定に対して納得できなかったり、感情的になってしまう児童がいたり、苦手意識からゲーム参加に消極的で楽しさを味わうことができない児童も出てくる。

(2) 児童の実態

体育学習には意欲的な児童が多く、活発に活動している。休み時間には、全員でドッジボールをするなど、体を動かすことが大好きな児童が多い。一方で、2・3名の女子児童は参加に消極的で、参加しないことが多い。5年生時には、ソフトバレーを学習しておらず、遊びの中でパス回しをやったことがある程度で、まだゲームは経験していない。バレー部に入っている児童が数名おり、技能の差があることも考えられる。ティーボールの学習などで、チームで作戦を立てたり、課題解決のために練習したり、仲間同士で教え合ったりする経験をしてきている。事前アンケートでは、「ソフトバレーは好きですか」という質問に対して32名中8名が「好きではない」と回答している。その理由として、「やり方が分からない」「怖い・痛い」「上手くできない」などが挙げられており、ソフトバレーのやり方自体が分からず、楽しさに触れることができていなかったり、技能で苦手意識が高かったりすることが分かった。

2. 実践について

(1) 単元の目標



(2) 学びへの働きかけ（指導の意図）

- ・ボール操作やボールを持たない時の動きの向上につながる練習を、単元を通して学習の導入に取り入れて必要な動きを身に付けることができるようにする。
- ・パスやアタックや動きの技能を高めることができる簡単なゲームを経験させ、チームの課題の解決に適したものを選択できるようにする。
- ・ボール操作のポイントを提示し、児童が学習中に確認しながら技能が向上できるようにする。また、毎時間の学習の振り返りでチーム力向上のためのポイントを話し合い、出てきたことを掲示してお

くなどして、グループでのかかわり合いの際にも活用できるようにする。

- ・練習時には、チーム内でゲームを行って互いのプレーを見合うことができるようにし、自己の技やチームの動きの出来栄を確認したり、友達にアドバイスをしたりするなどして、高まり合っていけるようにする。
- ・学習の導入時に、チームとしての力を高めてレベルアップしてほしいという仲間とのかかわりについての教師の願いを伝え、「みんなでレベルアップ」というめあてを立て、全体で学習を深めていき、友達とのかかわりが増えるようにしていく。そして、単元の流れの区切りごとや単元終わりの振り返りの中で、基本技術チェックやチーム力チェックなどを行い、レベルアップを実感できるようにする。

(3) 単元の流れ及び評価の計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
主 な ね ら い	学習の 進め方 を理解 しよう	友達と協力しながら技能の ポイントを意識して練習に 取り組もう ルールの工夫を考えよう ゲームに慣れていこう		ルールの工夫を考えよう チームの課題を考え、課題に合った場を選び、 練習に取り組もう 作戦を考えてゲームをしよう			今まで練習してきた力を 発揮し、作戦を工夫してゲ ームで、相手チームとの競 い合いを楽しもう			学習を 振り返 ろう
核 と な る 学 習 内 容	学習の 進め方 や用具 の準備 の仕方 を知る	① 基礎力向上ステージ 用具の準備・集合・整列・ 挨拶・基礎練習 ・パスゲーム ・サーブゲーム ・ラリーゲーム ・アタックゲーム ・全員パスゲーム		② チーム力向上ステージ ルールを工夫したゲーム ゲームの振り返りによる課題発見と解決 方法の試行錯誤			③ チャレンジステージ チーム総当たりでのゲ ーム			技能チ ェック 成長 学び 楽しさ や喜び
学 習 活 動	オリエン テーション 用具の 準備の 仕方 や技の 確認	活動① [基本タイム] 活動② グループ練習 活動③ [ゲーム] 活動④ [振り返り]	活動① [基本タイム] 活動② グループ練習 活動③ [練習ゲーム] 活動④ [振り返り]	活動① [基本タイム] 活動② グループ練習 活動③ [練習ゲーム] 活動④ [振り返りタイム]	活動① [基本タイム] 活動② グループ練習 活動③ [練習ゲーム] 活動④ [振り返りタイム]	活動① [基本タイム] 活動② グループ練習 活動③ [練習ゲーム] 活動④ [振り返りタイム]	活動① [チームw-up タイム] 活動② [ゲーム] 活動③ [チーム振り返りタイム]			技能チ ェック 交流ゲ ーム 感想ア ンケー ト 単元を 通して の振り返り
計 画 評 価 の 学 習	知 思 学	①	①		①	②	②	②		②
		③		① ②		③		③	②	

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
具 体 的 な 評 価 規 準	① ソフトバレーボールのゲームの仕方を理解している。 ② ボール操作やボールを持たない時の動きを身につけ、ゲームにいかしている。	① ルールを工夫したり、自分やチームの特徴に応じた作戦を選んだりしている。 ② 課題の解決のために自分の考えを仲間に伝えている。	① ルールやマナーを守り、仲間と助け合いながら、積極的にゲームや練習に取り組んでいる。 ② 勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取り組みを認め合ったりしている。 ③ 用具を片付けたり、用具の安全に気をつけたりしている。

3. 指導の実際

事前アンケートで苦手意識を持つ児童が多かったことから、ボールにたくさん触れられるように学習時間の始めに基礎タイムを設け、2人に1つボールを持たせ、パスやサーブなどの基本練習をしながら、ボール操作に慣れていくようにしたところ、見違えるほど上達し、ゲームを楽しむことができるようになっていった。また、軽い100gのボールを中心に使うようにした。

スモールステップでステージを設定し、学習のゴールをめざして取り組んでいけるようにした。また、同じステージでは、1時間の学習の流れを統一し、児童に学習の流れが分かりやすいようにした。

ルールについては、「わたしたちの体育」の「もとなるルール」をもとに、児童から出てきたものを取り上げ、実際にそのルールでやってみて、最終的に全体のルールとして決めていった。

「みんなでレベルアップ」というテーマを設定し、個人やチームを向上していくために、課題を考えたり、それを克服するための練習を考えたり、チームの仲間で確認したりする話し合いの時間をとるようにした。個人の振り返りについては、ステージごとに振り返るワークシートを作成し、「わたしたちの体育」に貼り付け、「わたしたちの体育」のふりかえり欄の記入と両方で行い、次の学習やステージへの自分の目標を持たせるようにした。また、チームごとにカードを持たせ、チームの振り返りなどの話し合いの際に活用し、チームの課題を考えたり、チーム練習の計画を学習時間までに立てたりできるようにした。



4. 成果と課題

- 事前にアンケートをするなどして、児童の技能面だけでなく情意面を把握し、技能面での実態も踏まえ、スモールステップの学習計画を立てたことで、児童は学習が進む中で自信を持ち、どんどん主体的に学習に取り組んでいくことができた。事前アンケートで8名いた「好きではない」と答えた児童が、学習後には全員「好き」と回答した。
- オリエンテーションで学習のゴールを全体で確認したこと、また、ゴールをめざした学習計画を作っていたことで、児童は高い意欲で学習に取り組むことができた。
- ステージごとの始めの時間に、1時間の学習時間の流れを確認し、そのステージはほぼ変わらない流れにしたことで、児童は自分たちで次の活動に取り組んでいくことができた。教師の説明する時間も短くてすむので、運動時間や話し合いの時間をしっかりと確保することもできた。
- 学習時間ごと、ステージごとに振り返りをして、個人の目標を持って学習に臨み、その自己評価をしていったことで、児童は高い意欲を維持して学習に取り組むことができ、自分の成長を実感することができた。
- 仲間チームでゲームを見合ったり、一緒に練習したりする中で、教え合いなども多く見られるようになった。
- 指導者として児童を育てていくためには、児童やチームの見取り(把握)をして、活動中にどのタイミングで、どういう言葉をかけるのか(支援するのか)が大切である。経験者でなくても効果的なポイントで支援をするための教材研究が必要だと感じた。
- 本校には、ゴムのソフトバレーボールしかなく、今回の学習にあたって他校から100gと50gのボールとネット・ポール1セットを借りた。児童の実態にあった学習を計画していくためには用具・設備面で、事前にしっかりと準備しておくことが必要だと感じた。